

**No147** 新著の紹介(コーナー)

**大学教員の能力開発研究  
ーファカルティ・ディベロップメントの  
構造と評価ー**

佐藤浩章先生(大阪大学准教授)にインタビュー



溝上 慎一の教育論(動画チャンネル) No147

新著の紹介『大学教員の能力開発研究  
ーファカルティ・ディベロップメントの構造と評価ー』  
佐藤浩章先生(大阪大学准教授)にインタビュー

溝上 慎一 Shinichi Mizokami, Ph.D.

学校法人桐蔭学園 理事長  
桐蔭横浜大学 教授

<http://smizok.net/>  
E-mail [mizokami@toin.ac.jp](mailto:mizokami@toin.ac.jp)

学校法人河合塾 教育研究開発本部 研究顧問

【プロフィール】1970年生まれ。大阪府立茨木高校卒業。神戸大学教育学部卒業、1996年京都大学助手、講師、准教授、2014年教授を経て2018年に桐蔭学園へ。桐蔭横浜大学学長(2020-2021年)。京都大学博士(教育学)。

\*詳しくはスライド最後をご覧ください

※本動画チャンネルは溝上が個人的に作成・提供するものです。  
公益財団法人電通育英会の助成を受けて行われています

## (ご紹介)



佐藤浩章  
さとう ひろあき

大阪大学全学教育推進機構教育学習支援部 准教授

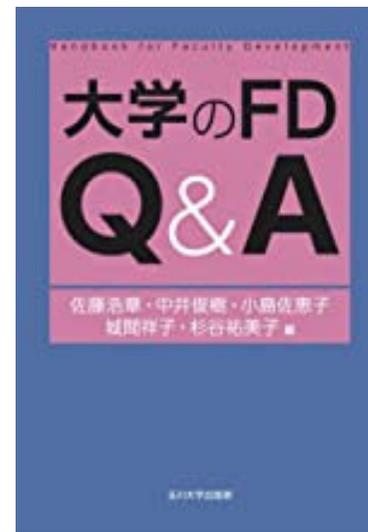
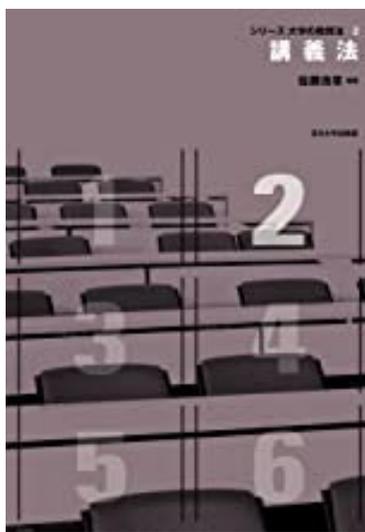
2002年 北海道大学大学院教育学研究科博士後期課程単位取得退学。博士（教育学）。

同年4月より愛媛大学大学教育総合センター教育システム開発部講師・准教授、教育・学生支援機構教育企画室准教授・副室長を経て、2013年10月より現職。

専門は、高等教育開発。日本高等教育開発協会理事、大学教育学会常務理事、The International Consortium for Educational Development日本代表。



# 佐藤先生の主な著作



『高校教員のための探究学習入門』（2021、単著）

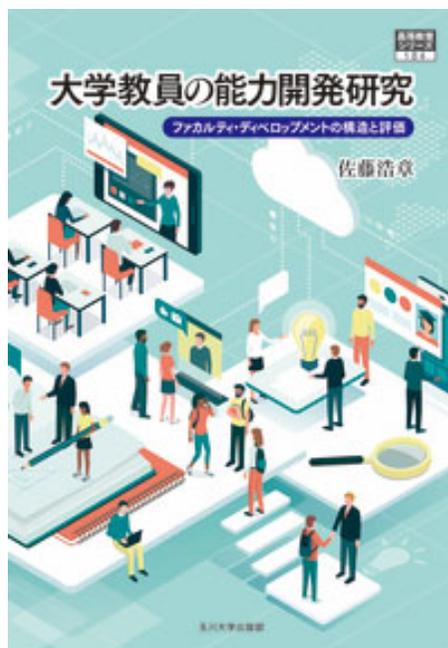
『授業改善』（2021、共編著）

『講義法』（2017、編著）

『大学のFDQ&A』（2016、編著）

『大学生の主体性を促すカリキュラム・デザイン』（2016、編集代表）

# 新著の紹介



佐藤浩章著『大学教員の能力開発研究  
—ファカルティ・ディベロップメントの構造と評価  
—』 玉川大学出版部（2023年1月刊行）

- 序 章 背景とリサーチ・クエスチョン
- 第1章 日本と諸外国におけるFD
- 第2章 日本におけるFD論
- 第3章 FDの構造モデル
- 第4章 FD研究の特徴と先行研究の整理
- 第5章 授業コンサルテーションの実践と評価
- 第6章 ティーチング・ポートフォリオ・ワーク  
ショップの実践と評価
- 終 章 意義・課題・展望
  
- 補 章 ポスト・コロナ時代の大学教員とFD

それではご覧ください

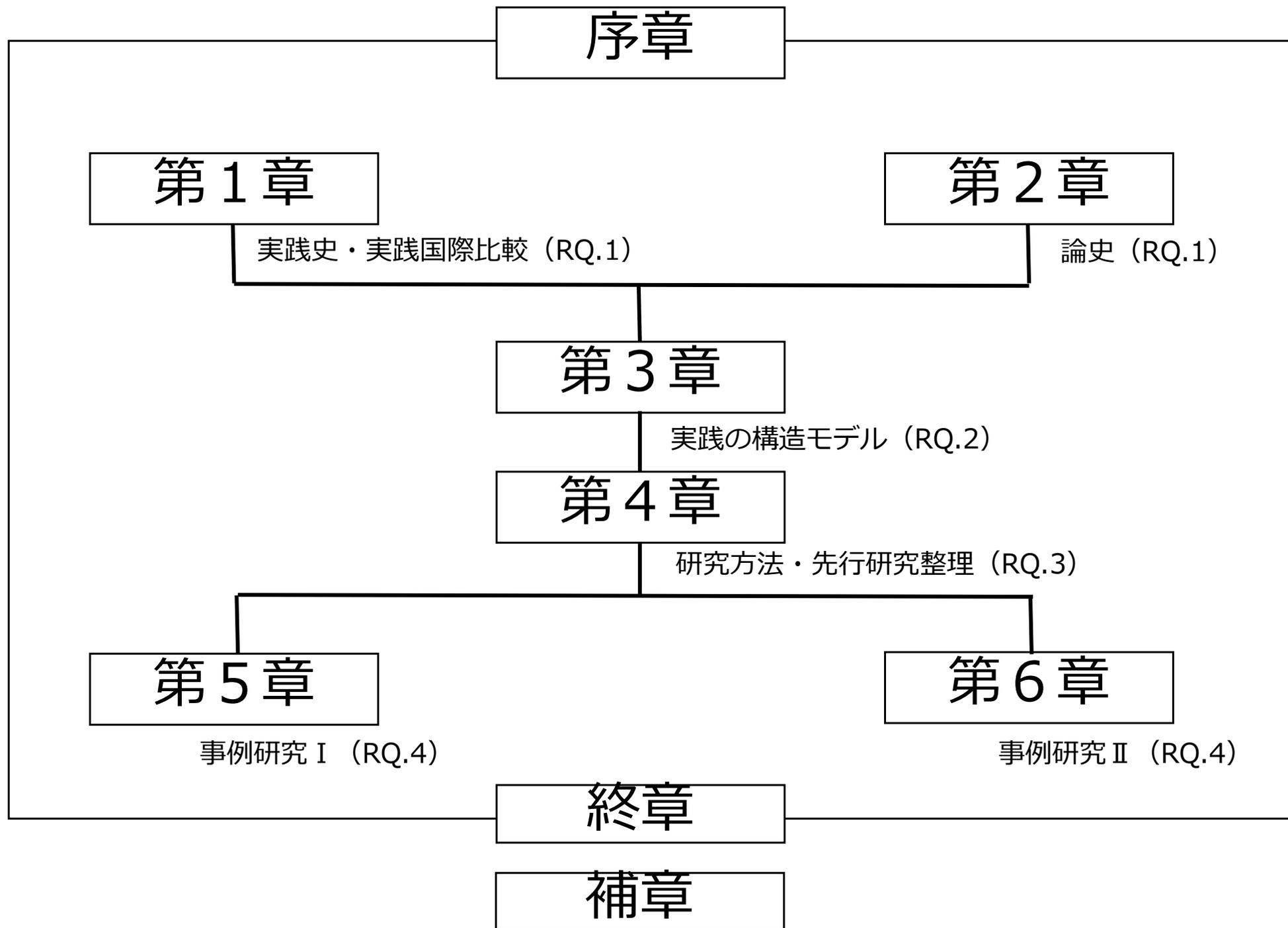
## 本書概要

コロナ禍は図らずも史上最大規模のFD（Faculty Development）を国内各地や全世界にもたらしたと同時にポスト・コロナ時代の大学教員とFDの変容を加速させた。国内外の大学教員の能力開発の構造と評価をその発展と実態により明らかにし、研究と実践の双方からこれからの時代と社会に相応しいFD概念を提言する。

（佐藤浩章『大学教員の能力開発研究 ファカルティ・ディベロップメントの構造と評価』玉川大学出版部 2023/01/15出版）



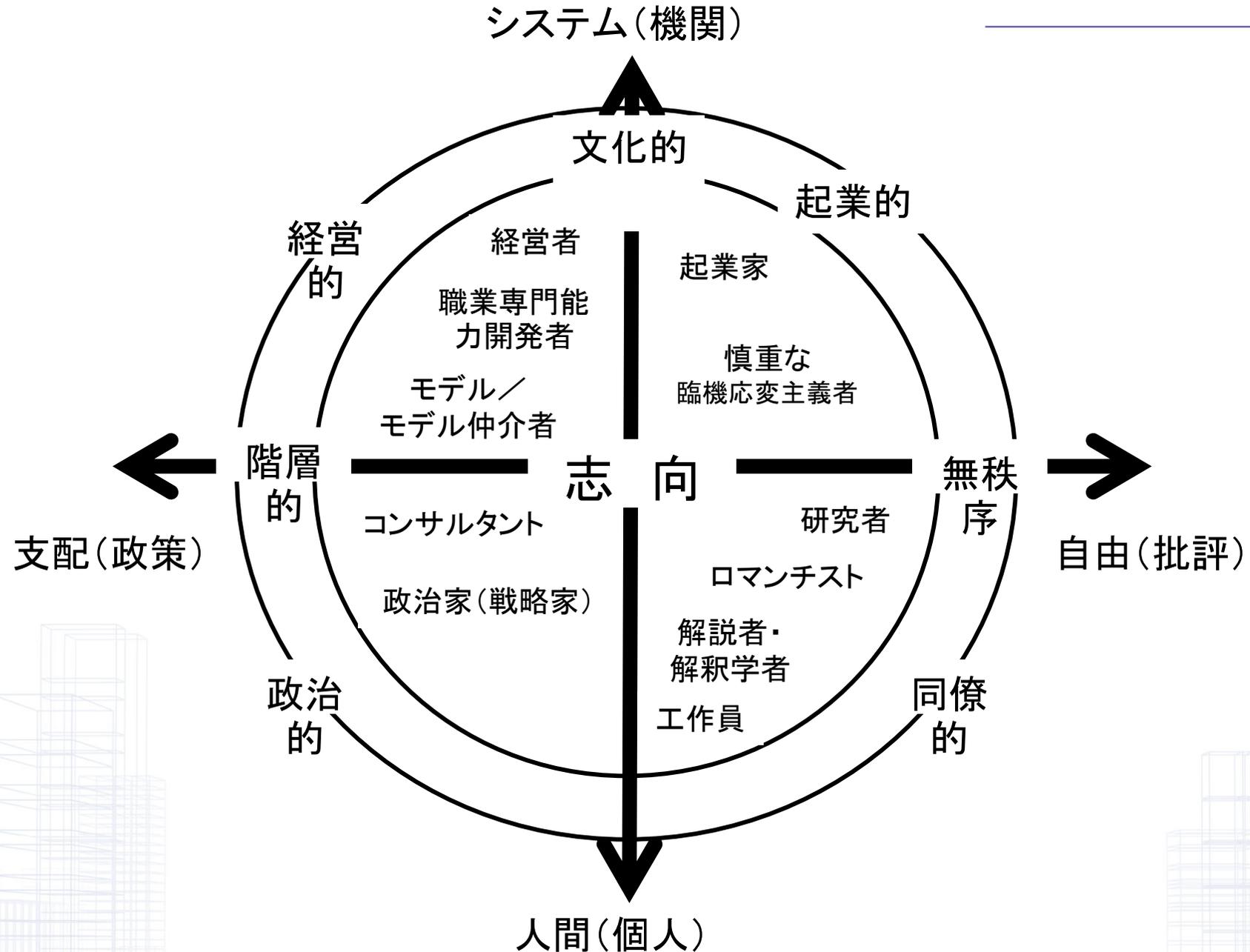
# 構成



# ハイライト

## 序章 背景とリサーチ・クエスチョン

1. 背景と目的 1
  - (1) 大学における教育の質保証と大学教員の質保証 1
  - (2) 大学教員の大衆化と大学教員の能力開発 5
2. 用語の整理と定義 8
  - (1) FD (ファカルティ・ディベロップメント) 9
  - (2) FDer (ファカルティ・ディベロッパー) 13
3. リサーチ・クエスチョンと構成 27



# ハイライト

## 第1章 日本と諸外国におけるFD

1. 日本のFDはどのように発展してきたのか 33
  - (1) 第1期：萌芽期（1960年代～1970年代） 33
  - (2) 第2期：始動期（1980年代～1990年代半ば） 38
  - (3) 第3期：競争による急速な発展期  
（1990年代後半～2000年代半ば） 39
  - (4) 第4期：連携による持続的な発展期（2000年代後半～現在） 42
2. 諸外国のFDはどのような状況にあるのか 48
  - (1) 世界の中の日本のFD 48
  - (2) イギリスにおけるFD 49
  - (3) アメリカにおけるFD 54
  - (4) その他の国々におけるFD 57
  - (5) 国際的なFDネットワーク 60
3. 要約と課題 62

## 第2章 日本におけるFD論

1. 日本においてFDはどのように論じられてきたのか 65
2. 定義論 66
  - (1) 外国からの用語の導入と普及 66
  - (2) 「狭義のFD」と「広義のFD」 67
  - (3) 政策上の定義とそれに対する反論 68
  - (4) 拡張される定義 70
3. 展開アプローチ論 71
  - (1) 「行政的制度レベルのパラダイム」対「自律的活動レベルのパラダイム」 71
  - (2) 「伝達講習・制度化型」対「相互研修・自己組織化型」 72
  - (3) 「工学的経営学的モデル」対「自律型、羅生門型、相互研修型モデル」 73
  - (4) 「スタンダード・アプローチ」対「生成的アプローチ」 73
4. 推進主体論 74
  - (1) 二元的主体論 74
  - (2) 多元的主体論 76
5. 要約と課題 77
  - (1) 拡張された広義の定義論へ 77
  - (2) 多元的な展開アプローチ論へ 78
  - (3) ホリスティックな推進主体論へ 79

## 第3章 FDの構造モデル

1. FDをどのように構造化するか 81
2. 先行研究におけるFDの構造モデル 82
  - (1) 個別教員を中心としたモデル 83
  - (2) 大学組織を中心としたモデル 84
  - (3) 統合モデル 86
  - (4) 先行研究における構造モデルの課題 89
3. FDの3×3モデル 90
  - (1) 教育活動 90
  - (2) クライアント 91
  - (3) 領域 92
  - (4) 展開アプローチ 95
4. 要約と課題 98

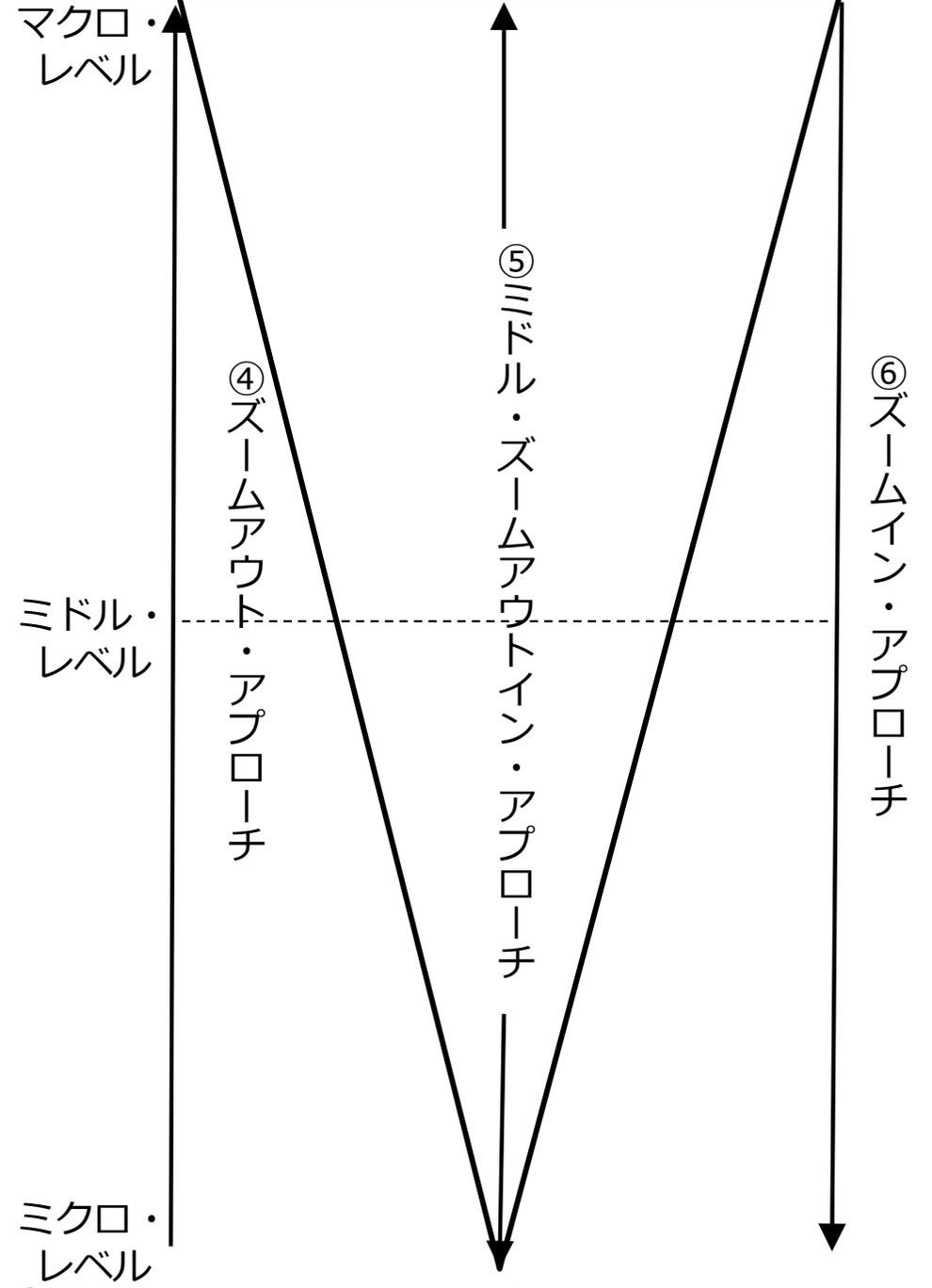
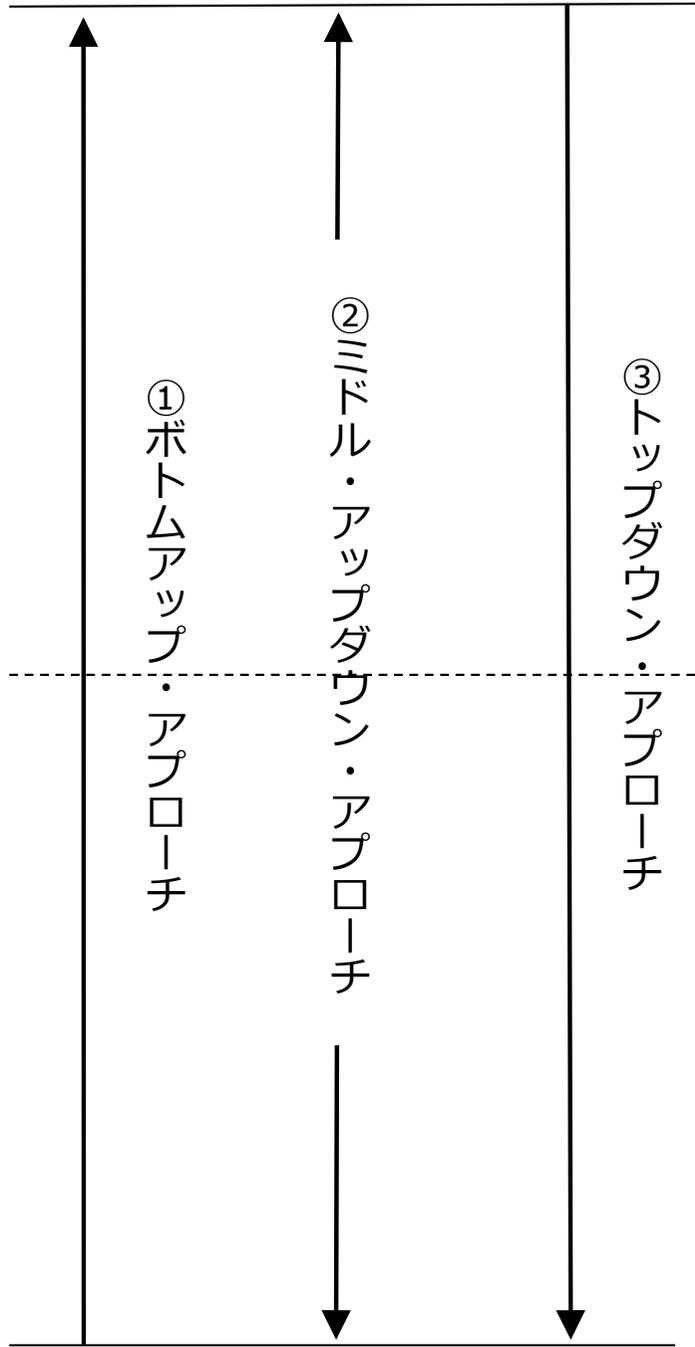
# クライアント

# 教育活動

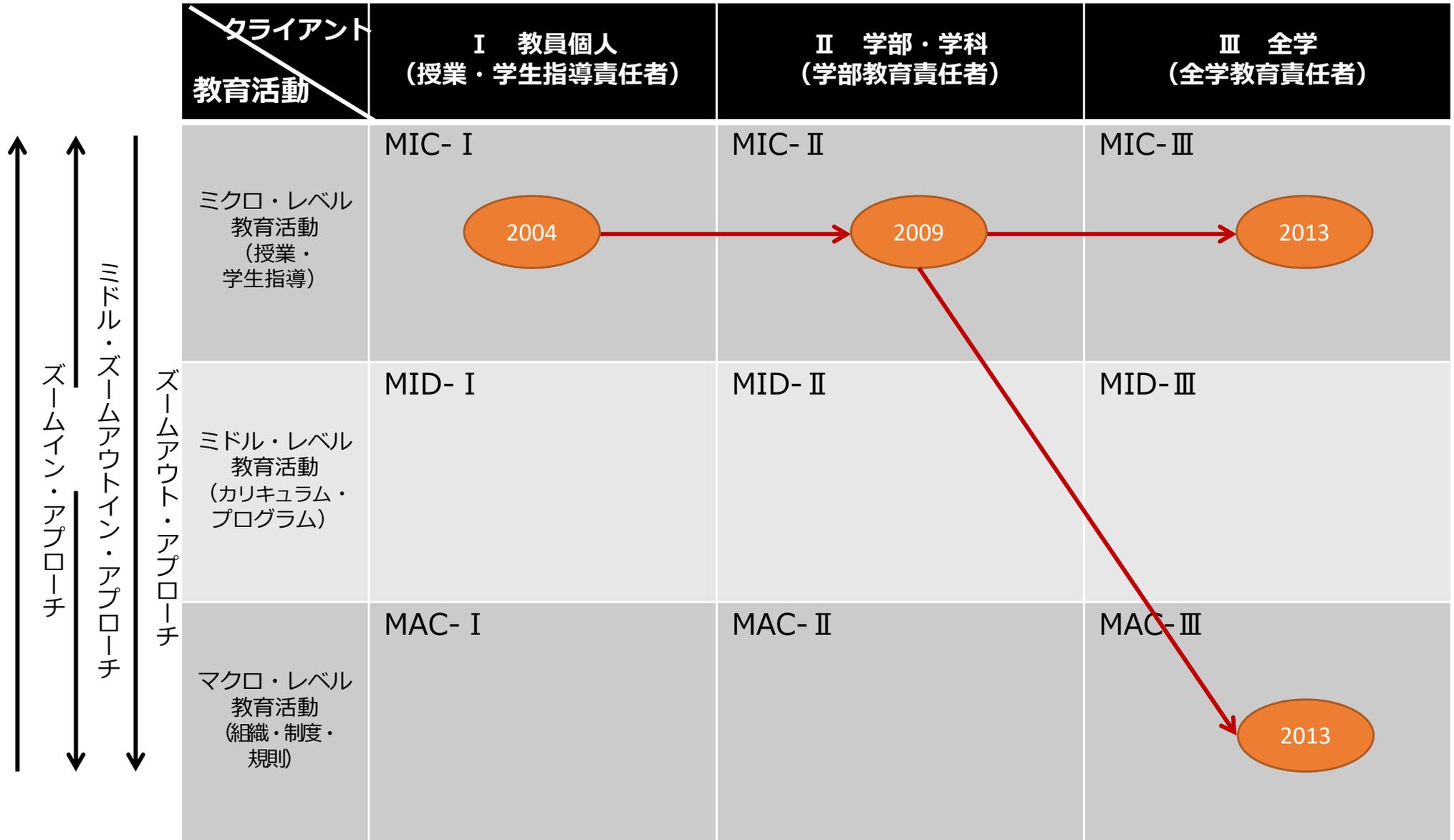
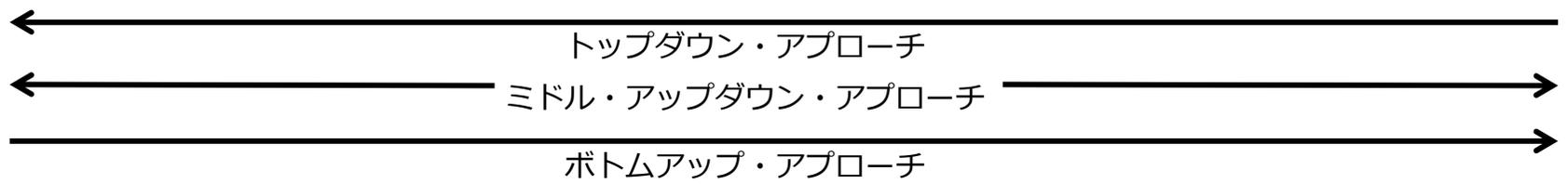
Ⅲ  
全学

Ⅱ  
学部・学科

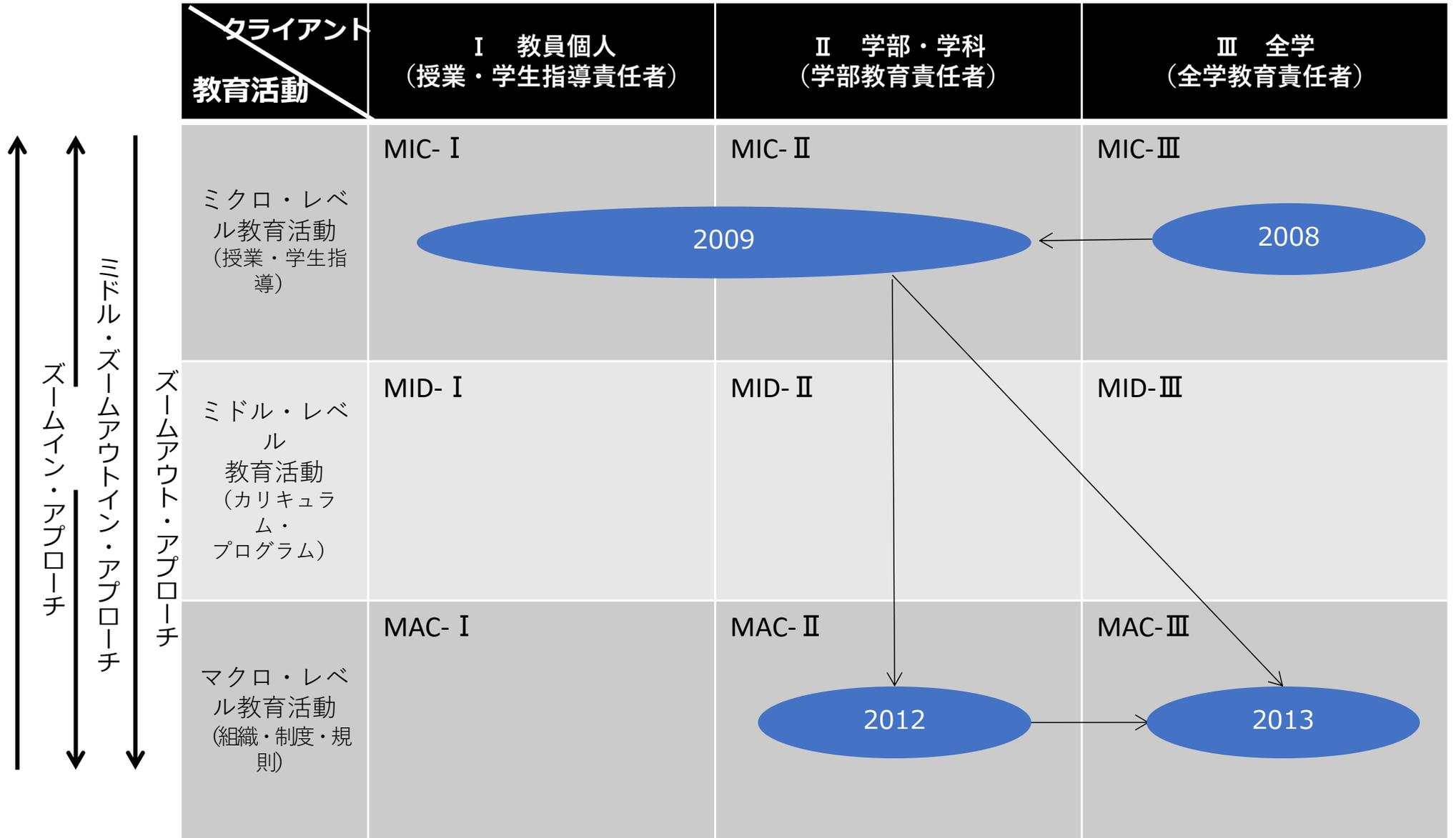
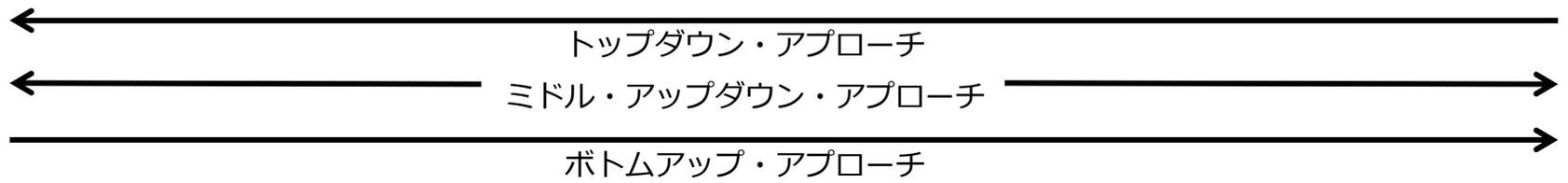
Ⅰ  
教員個人



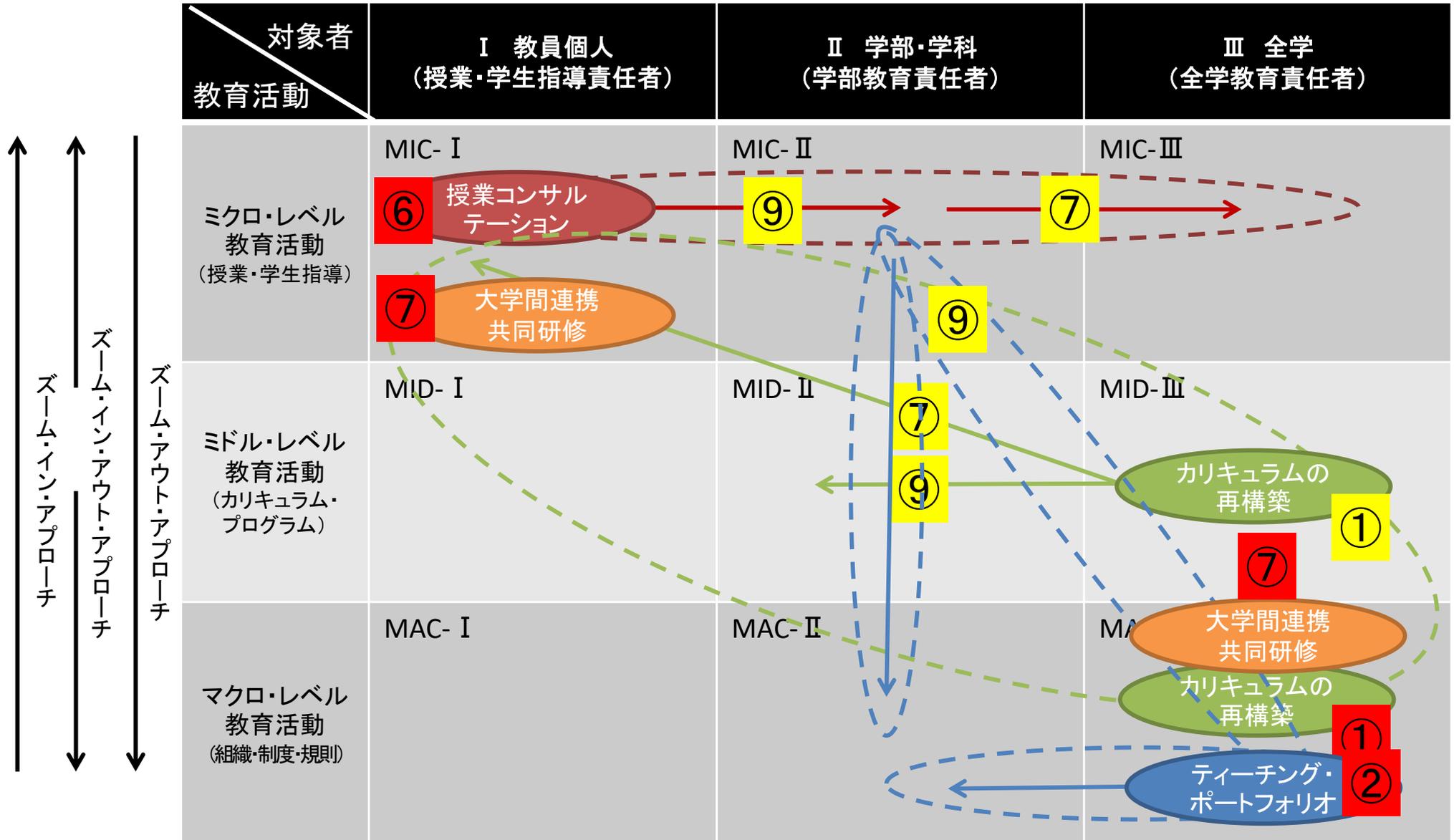
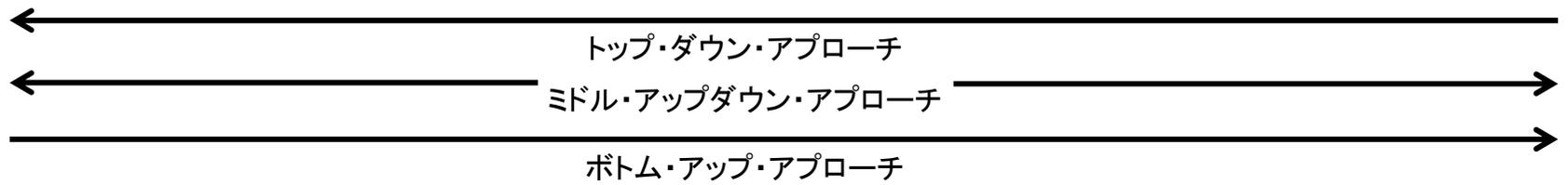




## 授業コンサルテーションの事例



## ティーチング・ポートフォリオの事例



## 各種FDの事例 (該当頁なし)

## 第4章 FD研究の特徴と先行研究の整理

1. FD研究の特徴と方法は何か 101
  - (1) FDの特徴 101
  - (2) 臨床研究の必要性 103
  - (3) アクション・リサーチ 106
  - (4) 実践の評価に関する理論 110
2. 先行研究の整理と本書における研究方法 112
  - (1) 日本における先行研究 112
  - (2) 諸外国における先行研究 115
  - (3) 本書における研究方法 118
3. 要約と課題 120

## 第5章 授業コンサルテーションの実践と評価

1. 授業コンサルテーションとは何か 121
2. 授業コンサルテーションの実践 124
  - (1) 実践の概要 124
  - (2) モデルの適用と分析 125
3. 授業コンサルテーションの評価 127
  - (1) 調査方法 127
  - (2) 調査結果 128
4. 要約と課題 132
  - (1) 結果の要約と分析 132
  - (2) 研究上の課題 134
  - (3) 実践への示唆 135

## 第6章 ティーチング・ポートフォリオ・ワークショップの実践と評価

1. ティーチング・ポートフォリオとは何か 137
2. ティーチング・ポートフォリオ・ワークショップの実践 139
  - (1) 実践の概要 139
  - (2) モデルの適用と分析 140
3. ティーチング・ポートフォリオ・ワークショップの評価 145
  - (1) 調査方法 145
  - (2) 調査結果 146
4. 要約と課題 156
  - (1) 結果の要約と分析 156
  - (2) 研究上の課題 158
  - (3) 実践への示唆 158

## 終章 意義・課題・展望

- 1. 本書の意義 161
- 2. 本書の課題と展望 162

## 補章 ポスト・コロナ時代の大学教員とFD

- 1. 2020年度における大学の対応 165
  - (1) オンライン授業への転換 165
  - (2) 史上最大規模のFDの進展 165
  - (3) 課題過多問題とFD 167
  - (4) 授業料返還運動とFD 168
- 2. ポスト・コロナ時代の大学教員とFD 169
  - (1) ポスト・コロナ時代の大学授業 169
  - (2) ポスト・コロナ時代の大学教員の4類型 170
  - (3) ポスト・コロナ時代のFD 172

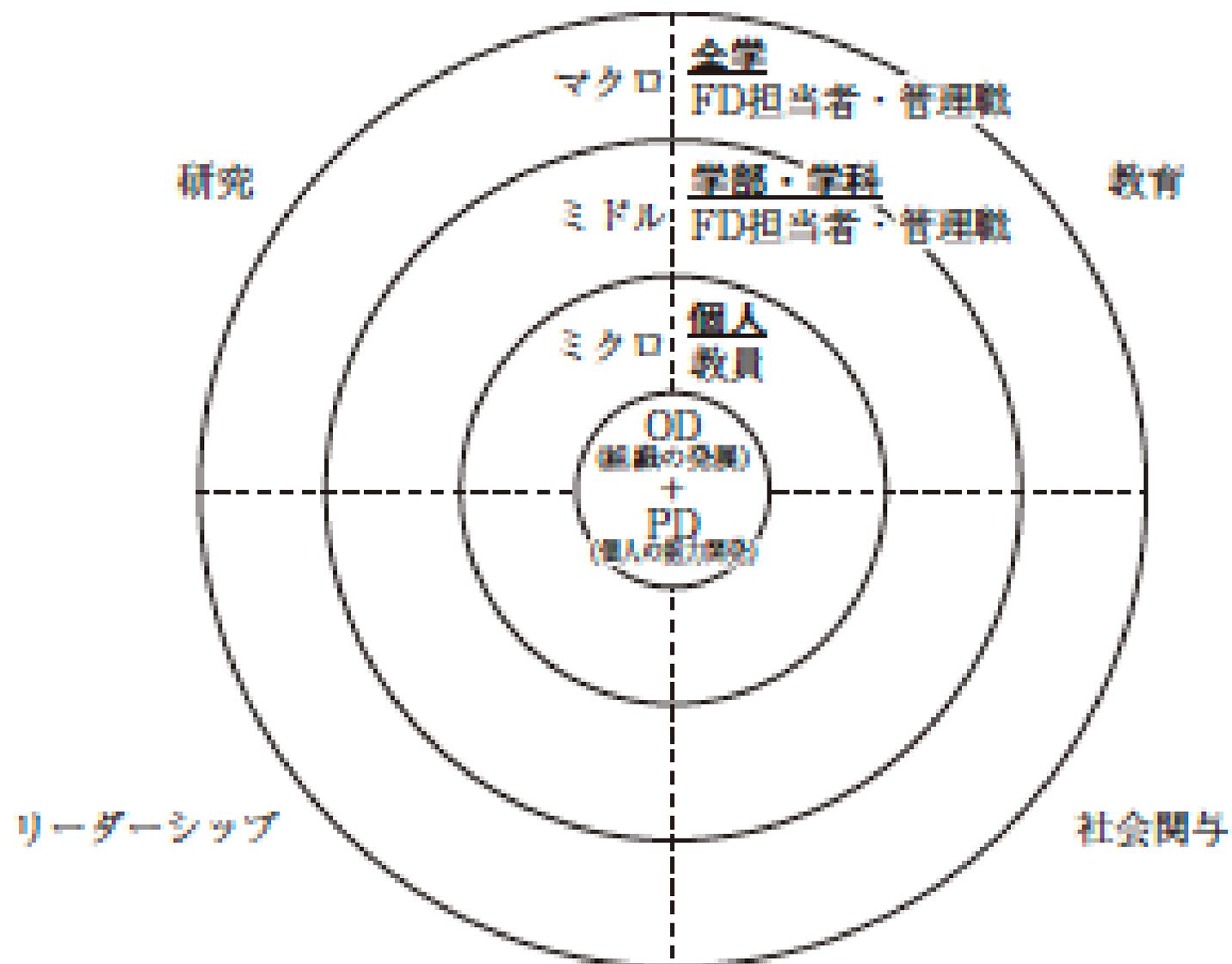
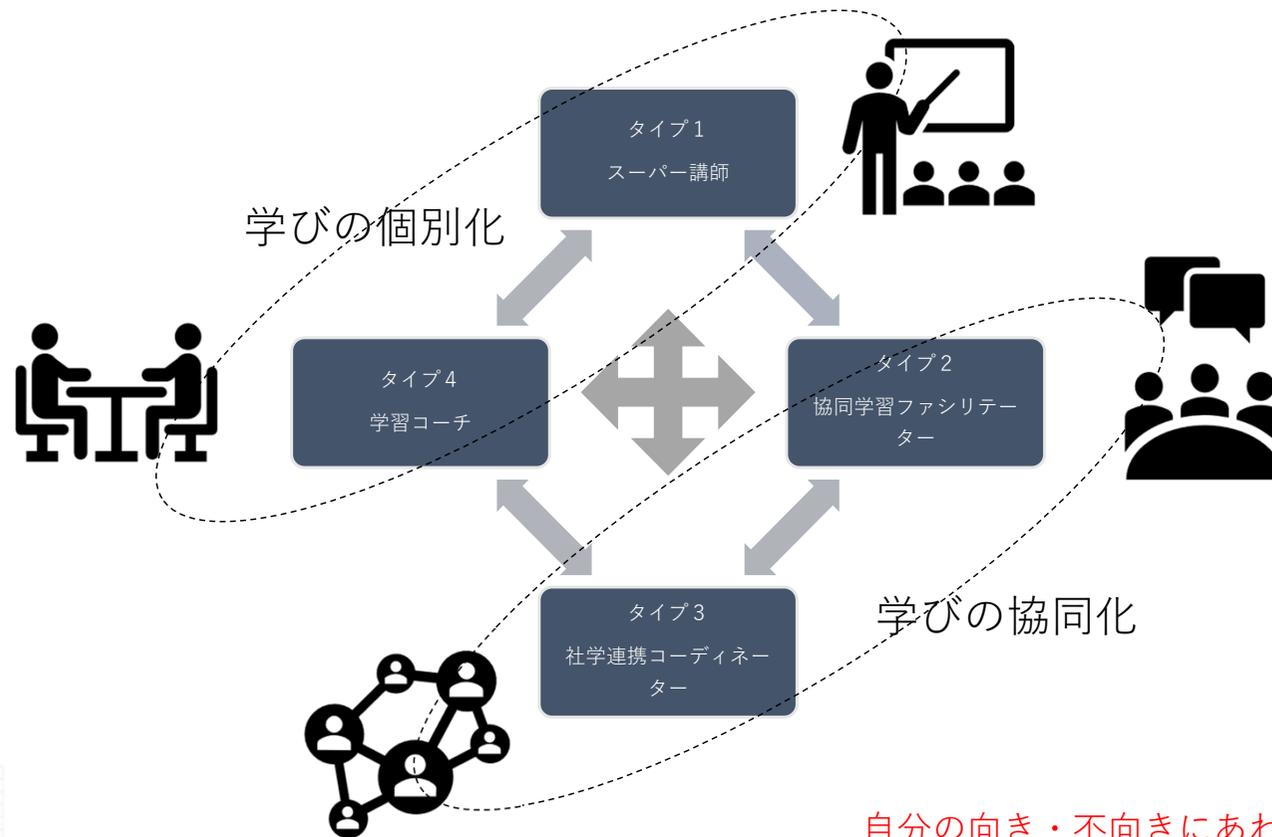


図23 重層的FDのフレームワーク

(佐藤, 2015a : 52)

## 求められる大学教員の分業・協業



自分の向き・不向きにあわせて役割を選択すると同時に、学内・国内外の教員等と様々なネットワークを構築する必要がある